地域・コミュニティ活動助成

# 一般社団法人もも

香川県高松市

住民参加による子ども・若者の居場所(茶室)づくりプロジェクト





## 団体設立経緯

香川県高松市において、10代から20歳前後の若者が無料で利用できるフリースペースなどが少なかったことや身近な家族の不登校をきっかけに、家庭や学校に加え、子ども・若者に向けた第3の居場所をつくりました。当団体のビジョンは、生まれ育つ環境に左右されず自分の未来に希望が持てる社会です。地域に活動を開きながら、社会的不利益・個人的困難のため課題に直面し、家庭、学校、職場に居場所がない子ども・若者やその家族の個別的な支援に取り組んでいます。

## 活動概要と活動対象範囲

相談の敷居を下げることを目的として、「住民参加による子ども・若者の居場所(茶室)づくりプロジェクト」をテーマに、地域の方々とともに使われていなかった6畳の納屋を子どもも通えるバーとして改修しました。改修後、月に6回ほどもものバーをオープンしています。大学生や社会人の方がバーの運営を担当し、10代の子ども・若者が集まっています。

### 活動に至った理由や背景

2018年7月以降、地域の方々の協力のおかげもあり、活動が周知され







4月、敷地内の離れを改修するにあたり、まずは不用品の処分から手をつけた

当団体のまなびやで時間を過ごす子どもや若者が増えてきました。一方で、活動を始めた頃のように、少しお話や相談をしたいときに抵抗なく話せる家庭的な場がもっとあったらいいなという気持ちが強くなっていきました。そこで今回、もものスペースの一角にある6畳の小さな小屋を改修して、フラッと立ち寄れる場所をつくることにしました。

#### 活動内容と成果

21年4月初旬。離れを改修すると 決めてからいつかしないといけない と思っていたことが大掃除です。不 要なものがたくさん詰め込まれた離 れからは、本当にたくさんのものが でてきました。リサイクルできない ものはごみセンターに持ち込みます。 この日は軽トラックを借りて3~4往 復しましたが、すべては片付けきれ ませんでした。地域の方に別途車を 出していただきながら、無事撤去が 終了しました。

撤去後、離れの修繕に取り掛かりましたが、予想以上に屋根や天井

が傷んでいたり、電気工事が必要 だったりしました。

6月中旬。地域の方が「また何しよるんな?」と声をかけてくださり、計画や事情をお話しすると、近隣の工務店に連絡を取り現場を見に来てくれました。天井や壁、床の撤去は自分たちですることにしました。1日かけて天井、壁、床すべての傷んだ木を撤去していきます。工務店さんには屋根の工事、天井と壁の張り替え、電気工事を担当していただきました。

7月23・24日。子ども・大人を含めたDIYのワークショップの開催です。自己紹介やワークショップに参加した理由などをお互いにシェアしてから作業を開始しました。これからも自分たちで作業ができるように、講師が道具の種類や使い方などを丁寧に教えます。

1日目はテーブルをつくったり、窓枠や引き戸のサッシを塗装したりしました。2日目は外壁の塗装の続きから始めました。すきまを埋めるように丁寧にペンキを塗っていきます。



壁や天井の張り替え、電気 工事などは近 隣の工務店の 協力を得た

**40** 2021年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 --般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 41



では、大勢の参 加者がDIYを楽 しみながら改修 に協力した





4月から4カ月か けて改修を済 ませ、「ももの バー」として生 まれ変わった

長年雨風を受けた部分がはげてい るのを白く塗りなおします。

午後からは外壁のペイントとス ツールづくりをしました。スツールづ くりは3~4人が1グループとなり、 木材やクッション材、電動ドライバー を使ってつくっていきます。小さい お子さんも参加していたので、大人 は優しく見守りながら木を支えたり、 手元を支えたりしていました。

多方面から多種多様な方々がワー クショップに参加してくださり、和気 あいあいとした雰囲気で改修が進ん でいきました。古くなり、使われて いなかった離れがたくさんの方々の 力で命を吹き返しました。

最後はもものバー完成とまなびや もも3周年をお祝いする「夕焼けコン サート|を開催しました。春から総勢 100名を超える方々に応援していた だき、もものバーの改修を実現でき ました。

8月31日。もものバーをオープンし ました。毎年、9月1日はたくさんの 子どもたちが自ら命を絶ってしまう日 です。しんどいな。つらいな。でも、 誰にも言えないな。そんな時は、こ こがあるよ。と知ってもらいたいと 思い、この日をオープン日としました。

当日は居場所のOB・OGが集まり、 もものバーのオープンをお祝いしま した。通信制高校に通う人、小学 校・中学校と不登校で頑張って高校

に進学したが、途中でリタイアした 人。「久しぶりに外に出て人と話し た」、「こんなに笑ったの久しぶり」と いう人もいました。大人たちは、ゆ るやかに交流しながら彼らを特別扱 いするわけではなく、フラットな関 係性で対話しています。この日、テ レビの放送局が3社取材に入り、当 日のお昼や夕方のニュースでも、も ものバーの様子や私たちの思いなど が放送されました。

9月。食事支援を開始しました。 子どもや若者は無料。大人はご寄 付をお願いします、という形式にし ました。いつでも駆け込めるよう な、安心して頼ることができる場を つくっていきたいと考えました。

「テレビの放送を見て興味を持っ た」、「すごく雰囲気が良さそうで、 ここなら行けるかもと思った」と、8 月末の新聞記事やテレビニュースを 見て初めて訪れる人が増えました。

バーのカウンターに並んでスマホ

をいじったり、ゲームをしたり、似 た趣味があることがわかればその 話題で盛り上がったり。その様子を マスター役の大人は優しく見守りつ つ、少しずつ会話をしていきます。 最初は好きなことの話が多かったけ れど、だんだんと自分の思いや状況 をぽつりぽつりと話す人も増えてい きました。

12月。子どもたちが、食事のメ ニューを一緒に考え、掃除や買い 出しを手伝いたいと言ってくれるよ うになりました。子ども自身から少 しずつ主体的に提案するようにな り、うれしく思いました。しかし、 それと同時に「何か役に立たなけれ ばいけない。何か役割がなければ ここにいてはいけない、ということ はないんだよ」と伝えていきました。

居場所は居るだけでいい場所。 学校でも家庭でも気持ちを張り詰め ている子ども若者に、安心してリラッ クスしてもいいんだと感じてもらえた



もものバーでの食事支 援。カウンターに並んで、 思い思いに時間を過ごす



「もものバー」の告知カード。誰もが過ごし たいように過ごせる場であることを伝える

らと思いました。

ボランティアさんがバーテンダー セットを持参し、100%ジュースを 使って子どもが飲めるカクテルを 作ってくれました。おしゃれな響きの カクテルに子どもたちはうれしそう だったり、すこし恥ずかしそうだった り。シャカシャカと音を立てながら、 グラスを拭きながら、マスターは子 どもたちの声に耳を傾けています。 「できるときに、できることを」という スタンスで、1~2カ月に1度参加す る方が増えてきました。

22年2月。地域の学校のスクール ソーシャルワーカーや先生、子育て 支援拠点の方など、情報共有をする ことも増えてきました。学校に行き にくいAさんは、もものバーに毎回の ように遊びに来ていました。つらい 経験から、他者とのコミュニケーショ ンに難しさを抱えていました。しか し、ここでいろんな人と出会ったり、 安心して自分のことを話せる大人と 関係性を築いたりしていく中で、自 分の思いを話したり、初めて会った 人にも話しかけたりできるようにな りました。

学校の定期テストを受けることが できたと報告してくれた時もありまし た。ももが開いている子ども食堂「り このキッチン」に、ボランティアとし て参加するようにもなりました。「も もがあってよかったです」、笑顔で 言ってくれたその一言は、もものバー をつくって良かったと感じる一つの 宝物になりました。

3月。夏のDIYワークショップに参 加し、オープン日に駆け付けてくれ たOB・OGのBさんから連絡があり ました。夏以来会っておらず、どう 過ごしているかなと気にしていると ころでした。

翌週、Bさんはももに来て、今の 状況やこれからの目標を話してくれ ました。家族に話すにも時間がか かったという自分の思いを話すため にももに来たこと。これからどうし ていくか、一緒に考えていこうと思 えたこと。「よく来てくれたね」という 私たちの言葉に、「何かあったらもも に行けばいいって覚えてるから」と返 してくれたBさん。中学校を卒業して 数年が経ちますが、バーができたこ とで、少しずつ大人になっていく若 者世代の子どもたちも立ち寄りやす くなったことを実感しました。

進路や学習の相談をした後、バー では地域のボランティアさんがつ くったお味噌汁とおにぎりを食べま した。そこで初めて会ったボランティ アの人たちとも話し、いろんな選択 肢や生き方があることを感じられた と思います。

#### 課題と解決方策

課題の第一は持続性です。特に 資金面や人材面においての課題が 大きいです。例えば、子どもが誰に も言えない悩みを抱えている際、個 別対応の場所や、スタッフの余裕が ないという問題があります。2022年 度はより細かなニーズに対応できる ように体制を整え、環境を整備して まいります。現場の運営、活動計 画、活動報告をしっかりと実施しな がら、地域に根付いた活動にするこ とで、資金や人材面の持続性の向 上につながると考えています。資金 面としては、会費制のファンクラブ なども面白いと思っています。

第二の課題は、子どもとの関わり から学校や保護者との面談の必要 性が見えてきはしましたが、まだ回 数が少なく積極的には実施できて いないことです。22年3月より、少し ずつ取り組むことはできるようになっ てきました。長期的な視点を持ち、 子どもやその保護者の方々が何か あった際に訪れる場所としてありた いと思います。保護者や地域の方々 が参加できるイベントなども実施し ていく予定です。

### 今後の予定

2022年度は、毎週1・2回夕方~ 夜の時間帯にオープン予定です。誰 もが気軽に立ち寄ることができ、安 心して悩み事や困りごとを相談する ことができる、適切な支援につな がることができる、誰もが豊かな社 会資源を活用することができる、そ んな社会を目指し、地域のプラット フォームになれるよう活動に取り組 んでいきます。今後は子ども、若者、 保護者、地域の方々、より多様な方々 に関わりながら活動していきます。

#### 一般社団法人もも

2018年7月設立、20年8月法人化/メンバー数:35人(ボランティア含む) /代表者:伊澤 貴大(いざわ・たかひろ)

- ●〒761-8074 香川県高松市太田上町1287-6
- **☎**087-899-5340 **►**manabiyamomo@gmail.com
- manabiya-momo.jimdofree.com
- f www.facebook.com/manabiyamomo/

「子ども若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームをつくる」をミッショ ンに活動しています。教育支援、居場所支援、暮らし支援、相談支援を実施して います。